

2024 年度 特待入試
第 4 回

国 語

〔注意事項〕

- 1 問題は一から四までです。
- 2 時間は 50 分です。
- 3 下敷きおよび電算機つきの時計の使用を禁止します。
- 4 解答は、濃くはっきりと書くようにしてください。
- 5 開始の合図があるまで問題用紙を開かず、手を触れないでください。
- 6 試験中はよそ見をせず、きちんとした態度で行ってください。
- 7 何か物を落としたら、黙って手をあげてください。
- 8 他の受験生に迷惑となるような行為をしないでください。

— 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

高校一年生の「内藤真歩」は、受験を乗り越えてあこがれの影山高校に入学し、書道部に入った。しかしその直後、「真歩」の父が体調をくずし、一家で父の地元引っ越さなくてはならなくなった。父の地元から影山高校までは往復5時間かかるが、「真歩」は何としても影山高校に通学し続けることを選んだ。

今日の練習の題字は、「睡蓮」。蓮の花の季節が近づいてきたからって、顧問の先生が説明していた。

書道部はパフォーマンスだけするわけじゃない。ふだんの活動日は、書写の授業みたいに、お手本に倣って書く練習をする。パフォーマンスをするためにも、土台となる地道な練習が大切なんだ。

「ちょっと、真歩っ。」

「え？」

隣に座っている知花の声で我に返った。書道をしているときは、まるで海中に潜るように、息も止めて無心になってしまう。

「何書いてるの？」

「何って……あっ。」

私が半紙に書いた文字は「睡」、そして「眠」。

「ま、間違えた。」

恥ずかしすぎる。風流な花の名前を書くはずが。

今の家に引っ越してから、ずっと眠い眠いって思ってるから、お手本そっちのけで無意識に書いてしまったのかな。

「睡蓮を睡眠と間違えるって、超ウケる。真歩ってしっかり者だと思ってたけど、意外と天然？」

知花のきらきらした笑い声につられて、周りの部員たちがこちらを振り向いている。そのなかには鶴先輩もいて、私の恥ずかしさは倍増した。

三年生の鶴友梨先輩は書道部の部長だ。色白でマッシュルームカットの髪からのぞく細い首筋がきれい、まさに鶴のイメージがしっくりくる。

実は、入部届を書くずっと前から、私は鶴先輩に憧れている。

中二で訪れた書道パフォーマンスのとき。

「二年D組、鶴友梨佳。」

そうアナウンスされて前に進み出た鶴先輩は、書道部員のなかで一番体が小さくて A した空気感をまとっていた。

「だあああああ。」

パフォーマンスが始まったとたん、鶴先輩は体中のパワーを爆発させた。

え、何この人！

第一印象の柔らかい雰囲気吹き飛ばす力強い筆さばき。隣に友達がいるのも忘れて、私の目は釘付けになっていた。何がこの人をこんなに突き動かしてるんだらう。

そうして先輩が体まるごと使って表現した文字は、「鷹」だった。その字はなぜか、私には「芯」と読むような気がした。

私もこんなふうには、芯のある人になりたい。

アーティストに憧れるように、その瞬間から鶴先輩は私の推しになった。受験勉強がうまくいかないときは、目を閉じて先輩のパフォーマンスを思い出した。念願の書道部に入ったとき、鶴先輩が部長だと知って、心のなかでガッツポーズをした。書道部には男子も数人いるけれど、A 女子の鶴先輩が部長だ。てことが、なぜか誇らしかった。

それにしても、鶴なのにどうして「鷹」という言葉を選んだんだらう？

いつか、もっと打ち解けたらその理由を聞いてみたいと思っている。

「大丈夫？ 内藤さん、寝不足？ さっき部室に来たときも、あくびしてたし……。」

「全然、大丈夫です！」

わ、鶴先輩が心配してくれた。

私は筆を持っていない左手をB 振る。マヌケな失敗で、鶴先輩と言葉を交わせた。あくびを見られてたのは恥ずかしいけど、ケガの功名いこうみやうってやつだ。

その日の帰り。バス通学（うらやましい！）の知花と別れ、傘を広げて駅まで一人で歩こうとしていた。

先週梅雨入りが発表されて以来ずっと雨だ。C と雨が傘を小さく打ちつける。

雨って苦手だ。憂鬱ゆううつになって通学路をさらに長く感じる。

「内藤さん。」

ちりんと鳴る鈴すずのような声が背後から聞こえた。

「鶴先輩！」

「一緒に帰らない？」

振り返ると、小柄な鶴先輩が私を見上げていた。もちろん、と私はうなずく。鶴先輩と一緒に帰るなんて初めてだ。

「内藤さんに話したいことがあるの。」

「話したいこと？」

何だろう。心当たりは何もない。鶴先輩はすぐに本題には入らなかった。

「書道部はどう？ 慣れた？」

「はい。アットホームな雰囲気先輩方は優しいし。墨擦^{すみず}ってると、すごく落ち着きます。」

「そっか……。」

① 鶴先輩はなぜか浮かない顔をしている。雨のせい、かな。

「内藤さんって、最近引っ越したんだよね？」

「はい。父の仕事の都合で。」

とっさに、ウソをついてしまった。

父は仕事を辞めてからだいたい家において、ゆっくり海辺を散歩したり、時間のかかる煮込み料理や揚げものを作ったりしている。鼻歌まじりにキッチンに向かって父を見ると、日陰^{ひかげ}に置かれていた植物が日なたで光合成してるみたいだなと思う。

でも、父親が仕事を辞めて家にいることを恥ずかしいと思っている私がいる。だから、人に話すには、事実^{じじつ}の微調整^{びちようせい}が必要だ。そのほうが、父の名誉^{めいよ}のためにもなるよね。

早いところ、話をずらそう。

「私、秋の文化祭が楽しみなんです。中二で書道パフォーマンスを見てから、ずっと憧れてて。」
「……………」

あれ？ 私、何か変なこと言ったかな。不自然な沈黙^{ちんもく}の後、鶴先輩は真顔で口を開いた。

「あのさ、話したいことっていうのはね。」

「はい。」

「内藤さん、無理しないほうがいいと思うんだ。」

「無理？」

予想外の言葉を鸚鵡^{わうむ}返しする私に、鶴先輩はうなずく。

「それって、どういう意味ですか？」

「引っ越し先、遠いんですよ？ ここまで通うの大変なんじゃないかなって。」

「そんなことないです、早起きももう慣れました。」

「今日の部活で、『睡眠』って書いてたでしょ。あの字を見て、よっぽどつらいんじゃないかって思ったんだ。」

「あれは、単なるうっかりで……。」

③「書は人の心を映すんだよ。」

柔らかく、でもはっきりと鶴先輩は言った。

「内藤さんはまだ入学したばかりだから、あと二年半以上この生活を続けなさいといけません。もし大学を受験するのなら、さらに受験勉強っていう重圧がかかるよ
ね。」

「はい……。」

「転校、考えたほうがいいんじゃないかな。」

「え。」

「部長だからって、私がこんなこと言える筋合いじゃないのは分かっているんだけど。いつか内藤さんが体を壊すんじゃないかって心配なの。内藤さんが住んでる近くの高校にも、きっと書道部はあると思うよ。」

心のなかで、ボキッと音がした。

私、鶴先輩に D 退部を促されて……。

これが、鶴先輩が私に「話したいこと」だったなんて。

頭では分かる。目障りだから追い出そうとしているわけじゃない、親切に心配してくれてるんだって。これは鶴先輩の優しさなんだって。

だけど。私の心のなかの筆は、折れた。

私は書道部に、鶴先輩に憧れて、山をよじ登る思いで影山高校に入ったのに。

④ 転校、考えたほうがいいんじゃないかな。転校、考えたほうがいいんじゃないかな。転校、考えたほうが……。

折れた筆じゃ、もう書けない。

こまつあやこ『雨にシエクラン』より

問一 A D にはあてはまることを次の中から選び、記号で答えなさい。なお、文中の二か所の A には同じ言葉が入ります。

ア ほんわか イ パラパラ ウ やんわり エ ぶんぶん

二 二次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

一般的にバイアスというのは、偏りや思い込み、思い違い、特定の概念への固執など、人間の認知の歪みを幅広く指す言葉です。私たちが情報に接するとき、自分では正しい判断をしていると思っても、認知の歪みが働き、実際には正確ではないことがあります。

でも、人類の長い進化の過程で、なぜ正確な判断をさまたげるような仕組みがなくならずに残ってきたのでしょうか。

私は、そこにこそバイアスの存在理由があるように思います。

つまり、人間が生き延びるためには、むしろバイアスが必要だったのではないかとということです。

バイアスの存在理由を簡単に言ってしまうえば、「人間の脳の限界」です。

私たち人間の脳というのは、高速で正確な計算ができるわけではありません。 I、約1億2千万人の日本の全人口の考え方を計算して、一瞬で平均値や

中央値、標準偏差を出せるのであれば、それこそ今の日本人の普通や常識と言われるものがわかるかもしれません。

でも、それは不可能ですよ。残念ながら、今の人間の脳の性能には限界があって、正確に「普通」を抽出することはできません。

ですから、もしも今より脳の性能を上げたいなら、もっと脳の体積を大きくするしかありませんが、そうすると骨盤の大きさに限界がありますから胎児を宿したお母さんの体は壊れてしまいます。

これ以上、脳を大きくできないならどうすればいいのかというと、現状の脳の大きさのまま、よりよい答えを出すための工夫をしなければなりません。

その工夫の一つが、バイアスなのかもしれません。粗い計算でいいから、瞬時に大まかな答えを出すという工夫です。

円周率であれば100桁まで暗記しなくても、「およそ3」でいいから余った計算のためのリソースを他のことに振り分けるとか、論理的な思考はスキップして脳にかかる負担を減らし、エネルギーを節約するなどです。

私たちの脳は、正確さよりも速度とエネルギー効率を重視した結果、バイアスというものが必要になったと考えられるのです。

II、鳥には群れて飛ぶものが多いですよ。空を見ていると、数羽、ときには数十羽、数百羽が群れをつくり、同じ速度で同じ方向に飛んでいることがあります。

不思議なことに、彼らは方向を変えるときも一斉にターンしているように見えます。いったいどうやって意思を伝え合っているのでしょうか？

コンピュータによって、鳥の生態から群れの形態を再現したものを「ボイドモデル (Boyd model) 鳥は鳥 (bird-oid) から作られた造語」といいますが、その解析によると、鳥の群れには全体を把握して統帥をとっているリーダーのような存在はいません。鳥は、自分の周辺の数羽を認知しているだけで、

群れ全体は認知していないと言われています。

人間も、この鳥の習性と似ているところがあります。

自分の周りに同じような人が3人もいれば、それがすべてだと思ひ込みやすい性質を持っているということです。

たとえば、クラスの中によく赤い服を着ている人が3人いて、その3人がたまたま数学を得意としていたら、 ② と思ひ込んでしまう、といった性質です。

実際には3人では母集団の数が少なすぎて、赤い服と数学の成績の間に何らかの関連性があると考えには無理があります。

その他にも、よく「東京の人間は冷たい」とか「大阪人はせっかち」などといった言い方をする人がいますよね。

このように、一部の人のある側面だけに当てはまることを、広く全体にも当てはまると決めつけてしまうことがあります。私たちは身近に同じような人が3人ほどいれば、それが真実だと思ひ込んでしまうような性質を持っているのです。

特に、自分と違う集団や共同体の人間については、ほとんど同じに見えてしまうことを「外集団バイアス」といいます。

もちろん東京にも親切な人もいますし、大阪にもものんびり屋さんはいるでしょう。それなのに、科学的な根拠も検討しないまま、よく知らない人たちに關してすべてひとくくりにしてしまう。

Ⅲ、私たち人間には、時間をかけて物事が正しいかどうかを検討する能力はそれほど強く求められていないからです。それよりも、短時間でざっくり物事を判断する能力や、その場で一番声の大きい人に合わせる能力などの方が多く、時間をかけて正しい解を出すことよりも、限られたリソースや時間の中で、よりよい判断をすることの方が求められているのです。

人間の長い歴史を考えれば、そうしないと日々の食糧にありつけずに死んでしまうこともあったはずなんです。

④ その影響なのか、私たち人間には、じっくり考える性質以上に、素早く決める性質の方が強くなっています。

もちろん人間にはゆっくり考える性質もありますから、周囲の環境が落ち着いているときには時間をかけて深く洞察することもありますが、一般的にはパッと判断して迅速に行動できる人の方が生きやすいのではないのでしょうか。正解ではないかもしれないけれども、よりよい方を素早く選ぶ能力が求められているのです。

「認知の歪み」などと言うと、何だかよくないことのように思う人もいるかもしれませんが、 Ⅳ、限られたリソースの中でスピーディーに概要をつかむ力があるということは、生物の生態としては、かなり工夫されていると言えるのではないのでしょうか。

中野信子『バイアス社会』を生き延びる」より

- * 概念……個別のものから共通点だけを取り出してつくったイメージ。
- * 固執……自分の意見を主張して、ゆずらないこと。
- * 認知……ことがらを感覚や意識ではっきり認めること。
- * 標準偏差……数値が平均値付近に集まっているか、平均値から離れているかの差。
- * 抽出……全体からあるものを抜き出すこと。
- * リソース……資源。
- * 統帥……集団をまとめてひきいること。
- * 共同体……主に同じ地域に住み、文化や利害などを共有する人々の集まり。

問一 I、IV に適する語を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

- ア でも イ たえば ウ なぜなら エ ところで

問二 部A「進化」、部B「結果」の対義語をそれぞれ漢字で答えなさい。

問三 部①「人間が生き延びるためには、むしろバイアスが必要だった」とありますが、その理由として最も適するものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分では正しい判断をしていると思っても、認知の歪みゆがみが働き、実際には正確ではないから。
- イ 私たち人間の脳というのは、いくら進化しても高速で正確な計算ができるようにはなれないから。
- ウ 人間の脳の限界に対応する工夫として、正確さよりも速度とエネルギー効率を重視しているから。
- エ 日本の全人口の考え方を計算して、日本人の普通や常識を理解するために必要な工夫であるから。

問四 ② に適する言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。ただし、ここでの「好き」は「得意」と同じ意味とみなします。

- ア 数学が好きな人は、常に赤い服を着ていない
- イ 数学が好きな人は皆みな、赤い服を着ている
- ウ 赤い服を着ている人は、数学を好きなことが多い
- エ 赤い服を好きな人は、数学を好きになることができる

問五 — 部③ 「3人では母集団の数が少なすぎて、赤い服と数学の成績の間に何らかの関連性があると考えerには無理があります」を簡潔に言い換えると次のようになる。 にはいる語を漢字三字で本文中から抜き出しなさい。

ではない考え方である。

問六 — 部④ 「その影響」とありますが、どのような影響ですか。答えなさい。

問七 次の1～4の内容が正しければ○、誤っていれば×をそれぞれ書きなさい。

- 1 人類の長い進化の過程で、正確な判断をさまたげる仕組みであるバイアスは、生き延びるために必要だから残ってきた。
- 2 鳥の群れには全体を把握してひきいるリーダーが必ず存在するため、群れは同じ速度や方向に飛ぶことができる。
- 3 自分がいる集団とは異なる集団の人間について、ひとくくりにして考えてしまうことを「外集団バイアス」という。
- 4 生物の生態としては、かなり工夫されてはいるものの、正確な判断ができなくなるバイアスはなくすべきである。

三 次の1～5の意味にふさわしい「手」を使った慣用句を□の字数で完成させなさい。ただし、ひらがなで答えること。

- 1 方法・手段がない ↓ 手が□□□□□□□□
- 2 手段を講ずる ↓ 手を□□
- 3 仕事をさばる ↓ 手を□□
- 4 はっきりとわかる ↓ 手に□□□□□□□□わかる
- 5 能力の範囲内にある ↓ 手が□□□□□□

四 次の——部のカタカナを漢字に直しなさい。

- ① ツノブエのよい音色が聞こえる。
- ② 思いのホカ遠かった。
- ③ できるときに親コウコウすべきだ。
- ④ ケンザカイに家を建てる。
- ⑤ ハクチュウ堂々ぬすみをはたらく。

